

政策課題研究 3

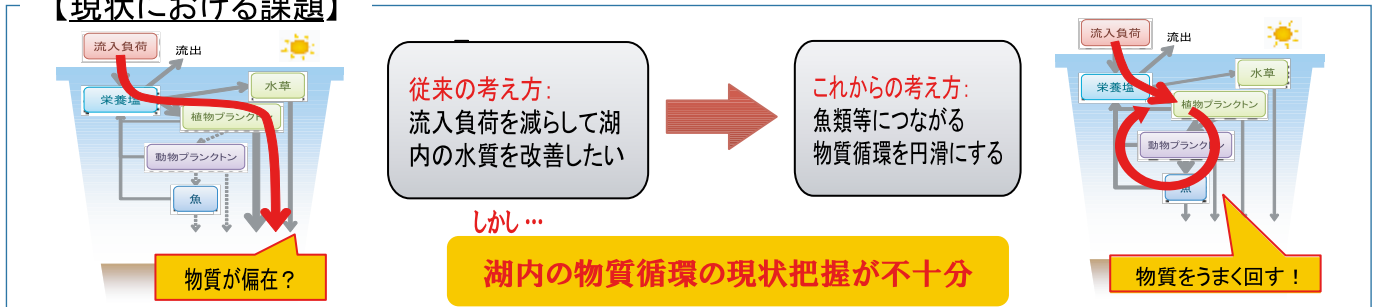
生態系保全につながる物質循環のあり方に関する研究

魚介類等につながる物質循環を円滑にして、良好な水質と魚介類の資源量の改善の両立を図ることが求められています。湖内の食物連鎖の状況を把握し、シミュレーションモデルを用いて水質と魚介類資源量との関連について解析することで、生態系保全の観点から望ましい湖内物質循環のあり方を研究します。その上で、物質循環の滞りを改善する施策や管理方法を提示します。

<サブテーマ>

- 琵琶湖流域における物質循環の解析と生態系保全につながる物質循環の評価手法の検討
- 各餌生物の魚類に対する寄与割合の解明
- 生食・微生物食物連鎖を介して動物プランクトンに至る有機物量の把握
- 炭素を中心とする物質循環の把握に適切な測定方法の検討

【現状における課題】



そこで！湖内の物質循環を解明

【課題解決に向けた対応】

1 物質循環の評価手法の構築

- 琵琶湖の健全性を評価する手法の構築



2 沖帯の食物網構造からみた魚類への餌資源評価

- 同位体比分析を用いた食物網の解析

3 琵琶湖における有機物収支の把握

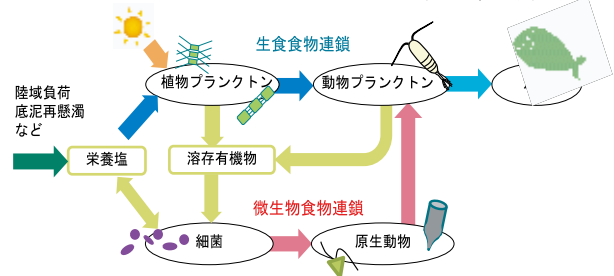
- 生食食物連鎖および微生物食物連鎖を介した有機物量の把握

4 物質循環の状況を把握する手法の検討

- 炭素を中心とする物質循環把握手法の検討



同位体比質量分析計
(国立環境研究所)



最終的には

- 生態系保全につながる湖内物質循環のあり方を提示